

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500564		
法人名	株式会社レモンの里で暮らす会		
事業所名	グループホームレモンの里		
所在地	三重県津市神納418-1		
自己評価作成日	令和5年3月18日	評価結果市町提出日	令和5年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2490500564-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	令和5年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※身体面…自然のもつ免疫力をつける→普通の人が普通に食べる食事。刺身のような生もの。好き嫌いを容認。キッチンで手作り。人体のもつ雑菌を活用する。
 ※心・感性面…人として生きる一面会、会話、笑顔を大切にする、食事を楽しむ、季節のもの、珍味、手作り、調理の匂い、共同作業、移動の自由、屋内外で過ごす、散歩、外出。
 ※いろいろな免疫が得られる(面会免疫、会話、活動、食事、自然、集団)…人生を楽しむ、リスクを恐れない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームレモンの里の特徴的な数々の取り組みの目的は、利用者一人ひとりにとって「より良い最期」が迎えられるように、終の棲家で悔いのない楽しい人生の最後を過ごして貰うための生活支援であり、本人や家族を精神面からも支え寄り添う看取りを経て見送る。遺族もホームの住人も職員も、皆が笑顔で故人の人生の卒業式であるレモン葬に参加し、遺族同士がまた慰霊祭で繋がる。一貫した活動の根底に流れるポリシーは、『防御より活力！一利用者の笑顔と元気のためには、リスクをも恐れない。』であり、一般的に思い浮かべるグループホームの生活とは違っている。その特徴的な取り組みは、「認知症の人と家族の会 全国研究集会」でも発表されているが、現場で働く素晴らしい職員を表彰する「クロツカル・ゴードン基金」の表彰も受けており、レモンの里のHPで詳しく紹介されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心して暮らせる。入居者それぞれにきめ細かく対応している。家庭的な雰囲気のなかで生活を楽しめる。	より良い最期を終の棲家で過ごすために利用者一人ひとりを知り理解する努力を惜しまず、「自分だったらそうありがたい」と思う支援を手間を惜しまず実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流コンサートの実施。 コロナにより一時的に中断したが、ガーデンコンサートの開催により音楽とガーデンの花にあふれた環境の中、入居者と地域の方々と交流することができた。	ブランコや遊具、沢山の花々と果樹がある柵の無い庭では、近隣の子どもや保護者、年配の方々が気軽に集え、利用者と交流できるようになっている。地域のボランティアの方々とは、日常的に交流している。ガーデンコンサートでは、地域の参加者や聴衆との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日本GH協会の全国大会(三重県)にて看取り・地域交流をテーマに発表。大会運営に協力・参加している。ガーデンはオープンにしており、ブランコや鉄棒など地域の公園として利用しやすい様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や家族、地域住民の代表者に提案しているサービス内容を明らかにし、サービスの質の確保を図る。入居者も参加して頂いている。コロナ下では報告形式とした。	コロナ下で主に利用者や職員での会議の為、写真等で理解し易い内容にし参加者の意見を聞くと共に外部への報告から得られるフィードバックやガーデンコンサートを機に来訪する家族や参加者からの意見も、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模ケア研究会役員として、津市との防疫体制構築の連携づくりを行っている。代表者が介護福祉専門学校の講師をし、人材育成をしている。実習生の受入も行っている。	津市担当者とは気軽に連絡・相談できる関係である。津市の小規模ケア研究会や地域密着型サービス協議会及び日本認知症グループホーム協会等の構成員を引き受けるなど、積極的に働きかけ相互に協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オープンを基本としている。玄関や居室を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 全職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。	身体拘束の原因となる利用者の状態を把握し検討しながら、落ち着いた環境作りや怒りや不安に寄り添った対応により「身体拘束をしなくても済むケア」に取り組んでいる。必要以上の施錠を行わず、またベランダから自由に入入りし易いような仕組みがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員・利用者がのびのびと暮らすことが虐待防止につながると認識している。施設内での研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待については、何が虐待にあたるかどうかという事、その原因・要因について平素から職員間で話し合っている。新人職員については十分に理解できるまで、単独介助はしないようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を行い理解・納得して頂いている。改定時にはその都度十分な説明を行い理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との会話の機会を積極的に作り、意見・要望などを会話の中から引き出して反映している。 毎月のケア会議と連絡票を活用している。	家族アンケートの「1. とても満足している」が大多数を占めているのは、利用者目線で取り組む特徴的な支援について理解を得るためのコミュニケーションが十分にとられており、職員間の情報や方針の共有も徹底している為と見られる。	「職員は利用者の家族」とのホームのポリシーから、家族意見が反映されていない事項があるが、アンケートでもなお根強い要望が残る「家族が職員を識別できるような何らかの手だて」に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は常に職場にいて平素から職員と、その都度現場で話し合い、反映に努めている。また、職員の意見交換が行われるケア会議には、経営者も参加して職員の意見を聞いている。	連絡票などを活用し、職員の率直な意見や疑問を聞くように努めている。ケア会議では即時即決・実行を目指し活発な意見交換が行われている。経営者も参加するので早期に方向性を決め、職員からの意見が反映され易い仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各人の日常生活を大切にし、休日・勤務時間の希望に沿うようにシフトを組んでいる。 職員は利用者目線で考慮し、必要と思われるものは、職員自身の判断で購入・調達するシステムとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を進めているが、資格の有無だけではなく、日頃のケアの仕方や考え方の把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対応終息に向けてガーデンコンサート開催。他施設職員・利用者見学があり交流している。今後は施設訪問で情報交換を行いネットワーク作りや勉強会などサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のそばで色々お話を伺うようにしている。常に見守っているという態度で安心感を伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来られた時に、ご本人と一緒に話をしたり、ご本人がいない時でも近況をお伝えしたり話す場を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の困っていることを会話のなかで聞き出したり、ご家族からどのように過ごして欲しいか(要望)を聞き取るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んで頂いたり、食器洗いなどの日常生活を職員と一緒にしている。「ありがとう」をいうのは職員が伝えること。と認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の希望に沿って職員と家族が協力して、帰省や思い出の場所に行ってもらい喜んで頂けた。同じ時間を過ごすことで意見交換する場が増え、より親密な関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントの時に、ご本人の馴染みの人を招待して交流してもらっている。日常的に面会を受け入れている。	本人の大切な人との馴染みの関係が途切れないよう、感染予防に努めながら日常的に面会を受け入れ、気持ちよく過ごして貰えるよう前もって様々な環境を整えている。また、本人と馴染みの人の関係をより深く知ろうと努めることで個人に対するケアの質を高めるべく取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の状況に合わせた対応。職員が仲介することにより、利用者間の交流が多くなっている。交流機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	安心・安全のために対象者を理解する。本人・家族をフォローし、相談や支援に努める。 誰でも受け入れられる雰囲気大切に、継続した関係性の維持を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いと可能性の把握。 利用者のペースで生活できるように努めている。起床・就寝・食事時間が各利用者によって異なる。	職員が、利用者一人ひとりの症状や思いを理解し寄り添えるよう事例研究にも努め、「望む暮らし」に向けた支援を目指している。利用者の精神的ケアを踏まえ、現実が本人の思いや意向に近づくような取り組みを日々模索し、実践努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとり一人の生活や環境・状況に合わせた対応。 ご本人やご家族から情報を得る努力をしている。育ちや仕事、趣味趣向や食べ物の好みを知ることが暮らしを支える上で重要と考える。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の行動の意味を理解し、不安やさみしさに寄り添う。 日常生活に寄り添うことで自然と身体機能の把握や精神世界の理解が深まっていくと考える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族とのコミュニケーション・信頼関係を大切に、両者にとって悔いのない時間になるよう配慮することを大切に考えている。 毎月のケア会議では基本方針を定め、日々の変化に対応できるケアプランを作成している。	利用者や家族と十分なコミュニケーションをとり、両者にとって悔いのない時間が過ごせるよう配慮し精神的なケアにも注力したプランを作成し支援している。退院時のカンファレンスには職員が同席し、利用者や家族の希望を病院側に伝えて調整し、ケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のケア会議に職員間で共有した情報をもとに話し合っている。緊急性のある事はその都度、記録を見直し話し合っている。 経過記録は各利用者に対応した項目を配置した個別書式としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅を見に行きたいという希望に行くことができ喜んで頂けた。職員が付き添いとして行くことで調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ガーデンコンサートを開催し、周辺住人の方や知人・家族と楽しい時間を過ごして頂けた。往診・訪問歯科などDr.とは馴染みの関係になっていて安心して地域への貢献活動ができる基盤となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	場合によっては往診をお願いする。職員は往診(受診)に立ち会い、かかりつけ医と意見交換を行い支援している。ご家族の意見も伝えている。	施設かかりつけ医の他に、本人・家族の希望するかかりつけ医を支援する体制がある。かかりつけ医往診の際には、職員も立会い家族の意見も伝えて医師と十分な意見交換を行い、本人にとって最適な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師1名在籍。看護職に相談することで受診のタイミングを図れる。また、平時は医療相談・入院時の病院・受診手配などを担当。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまでの経緯やそれまでの暮らしぶりを医療機関に提供する。入院中はその様子を確認しながら退院後の生活支援できる様に環境を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員との情報共有を行っている。家族の意向を聞き、日々の状態の報告を行っている。かかりつけ医・ナースに状態報告し、対応方法を検討できる関係作りを行う。ご家族・ご本人には入居時から見取りの説明をしている。日常的な意見交換を続ける事で良好な関係を維持している。	終の棲家としてターミナルケアにも力を入れ、特に家族への精神的側面からの支援には、どの遺族も大いに感謝している。終末期には、家族も共に過ごし交流を持つ中で双方の心の準備ができるように配慮し支援している。施設葬や慰霊祭には他の利用者も参し、「同じように見送られたい」と言っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケア会議時、専門職が初期対応についての研修の実施している。急変時にも対応できるよう複数の職員が対応できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケア会議時、通報装置・消火器などの場所の確認実施。目視できるところに災害時通報機関連絡先の表示あり。水害には隣接している有料老人ホームの2Fを使用する。	利用者のADLの低下により、移動自体も困難になってきているため、水害時には隣の老人ホームの2階を利用する準備ができています。その他の災害に関しては、近隣のサ高住(大園荘)と協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問の際には声掛けが必須。必要以上の介助は行わない。人権尊重し、上からの物言いをしていない。コミュニケーションを取りやすい声掛け。	接遇や介助方法は、マナーを基本とし一人ひとりを尊重した対応を心掛けている。家族の話や日頃のアセスメントから得た「その人らしさ」を尊重し、普通のお年寄りと同じような穏やかな暮らしが送れるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の思い・希望を話してもらえ環境にある。自己決定できるような言葉かけを心がける・本人ができることまで奪わない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事の時間帯の声かけは、ご本人の意思や状態を尊重し、個々のペースに合わせた対応をしている。日常の活動も希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時以外にも、必要な時には整容や身だしなみを共にしている。ご本人と相談しながらその日の服装を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものや魚等を利用者の目の前で調理したり、下ごしらえの手伝って頂ける部分は共にしている。食器洗いやお膳拭き等もお願いしている。	「人生を楽しむ。食事を楽しむ」、市場で旬の食材を求め、家でと同じように生のものも食べ好き嫌いも容認する。病院で食事を拒否し終末を迎える為に退院した利用者が、ここでは数カ月の間楽しんで食事をされた。職員は、常に「楽しんで」食事をして貰うための手だてを考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事作りの際に栄養バランスに留意しながら作っている。利用者の状態に合わせて食事形態を変えて提供している。水分摂取の声掛け・提供は適宜している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の歯磨きや義歯洗浄・口腔ケアスポンジでの口腔ケアを個々の状態に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をし、間隔を計りながら声をかけている。ご本人の様子を観察しながらトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄して頂けるようにしている。	トイレでの排泄継続にむけて記録や観察に基き、きめ細かな誘導に努めているが、座位が困難な利用者のおむつ使用が増えてきた為、おむつに伴うデメリットの解消に向けた検討や対策にも力を入れ、一人ひとりの状態に合わせた最適な対応を模索している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・乳酸菌飲料の摂取。水分摂取の声掛け。体操し腸内の動きを良くする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節により柚子湯等の提供をしている。室内も寒くならない様に工夫して、気持ちよく入って頂けるようにしている。	皆が一番風呂を楽しめるよう、面倒でもお湯は一人ひとり入れ替えている。浴室でタイルが「冷たい」と足が竦む利用者には、タオルを敷きお湯をかけることで抵抗なく入浴された事例から、利用者一人ひとりの不快に思うところを探り、改善にむけた支援に取り組んでいる。	入浴拒否や不快感には、若い頃には感じない年齢から来るものや、その人個人の経験からくる十人十色の理由がある。その理由を探り解消を試みたり、次回も入りたくなるような入浴の更なる探求に大いに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない等の訴えがある場合にはホールでゆっくり過ごして頂き、ホットミルクを飲んで頂いている。足先が冷えて寝られない人には湯たんぽを入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	はちみつなどで甘くして飲んで頂いたり、薬を飲みやすい様に工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることはお願いしている。おやつではリンゴの皮をむき、個々の人に配って頂く事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の変化で外出(ドライブ)・散歩に出かけている。ガーデンでは歌ったり、おやつを食べたりしている。	利用者の重度化が進み、外出を煩う人も多い中、楽しく外気に触れる機会を増やしている。日常のテラスの活動に加え、芋ほりや様々な野菜や果実の収穫、スイカ割や花火大会などを楽しんで貰っている。利用者が本当に求めているものを探ろうと傾聴しているが、個々人の気持ちを優先できない場面もままあることに心を痛めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で買い物や診療費の支払いなどを行うために、ご自分で金銭を管理している。必要な支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親族や友人とのやり取りが出来るように、ご本人が手紙を出す・携帯電話で通話をするなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはお花や絵画、ご本人の若いころの暮らしに使用していた雑貨などを配置して、生活感あふれるよう工夫している。	利用者にとって居心地がよいであろう懐かしい空間を作り出す為に、職員が家族や本人のエピソードを傾聴し、本人が若いころに流行していた物を収集し、廊下や居間などの共有空間に飾っている。廊下には所々に椅子が置いてあり、気の合った者同士のおしゃべりの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の思い入れのある、雑貨や雑誌を共用空間に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の若い頃の写真・ご家族との思い出の写真などを配置し、居心地よく過ごせるように工夫している。	家族の協力を得て、多くの思い出の写真を集め居室に配置することで、馴染みの雰囲気による落ち着ける空間作りを心掛けている。施錠していないガラス窓や、直接庭に降り立てる掃き出し窓などが緊張感を無くし、くつろげる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置。空間を広くとって車いすで移動できるように配慮している。 利用者にとってわかりやすく・過ごしやすい空間を提供している。		